

B O O K



『ワクチン —基礎から臨床まで—』

編集
日本ワクチン学会

本書は日本ワクチン学会の編集の下、朝倉書店から2018年10月に出版された書籍で、2004年にやはり同書店から刊行された『ワクチンの事典』(日本ワクチン学会編集)を前身としている。『ワクチンの事典』は、当時日本ワクチン学会理事長であられた故 神谷齊先生を編集委員長として、「病気の解説を正確に記述したうえで、その疾病の予防に使うワクチンに関して、現時点における最新かつ妥当でスタンダードな考え方を公平な立場で整理し提供することにより、基礎・臨床の医師、関連する医療従事者、行政関係の方々にも予防接種の正確な理解を促し、明確な指針として利用できる本を目指す」ことを趣旨として刊行され、「ワクチン学会が編集したスタンダードな事典」として多くの関係者に利用されてきたが、本書においてもそのDNAは確実に受け継がれている。

本書では、『ワクチンの辞典』刊行後に新しく導入されたワクチンに関する情報はもちろんのこと、とかく社会から注目されがちなワクチンの政策的・法的側面、副反応の評価や対応の問題などについても鋭く切り込み、学会としての考え方、立場を踏まえたかたちで、明確な解説がなされている。まさに日本ワクチン学会が責任をもって世に送り出した、編集者の思いが込められた一冊であるといえる。全350ページからなる厚みのある書籍であるが、内容は冒頭の総論に続き、各論として細菌感染症に対するワクチン、ウイルス感染症に対するワクチン、今後導入が期待されるワクチンについての解説があり、現在使用されている、あるいは開発されようとしているほぼすべてのワクチンが網羅され、それぞれについて、ワクチンの対象となる疾患の概略、ワクチンの製品と性状、接種法、世界の状況について詳しく解説されている。また本書の最後には、予防接種スケジュール、予防接種の禁忌、海外渡航時の予防接種、予防接種の法的基盤と救済法といった、実臨床で必要となる予防接種に関する一般的事項がまとめられている。総論の中では、ワクチンと免疫・アジュバント、ワクチンの開発・製造・品質管理、感染症法とサーベイランス、副反応報告システムなどのワクチンに関する基本的な知識について分かりやすく解説されているので、全体として基礎・臨床の両面から広くワクチンに関する情報にアクセスできる内容となっている。

ワクチンで防ぐことのできる疾患はワクチンで予防することが感染制御の原則であるが、本書は、ワクチンの接種を積極的に推進している方はもちろんのこと、ワクチンの接種推進に消極的な考えの方にとっても、必ず役立つワクチンの教科書になると考えている。

国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院感染症部
岩田 敏

発行所：朝倉書店 定価：10,260 円 (本体 9,500 円+税)